

～食産業クラスターの新たな展開がはじまる！～

2021年度 戦略的研究プロジェクトチーム

研究チーム名：東日本大震災津波被災地等における食産業クラスターの新展開

リーダー：総合政策学部 准教授・博士（農学） 新田義修

サブリーダー：名誉教授 植田眞弘（岩手県立大学）

分担研究者：名誉教授・博士（医学）千葉啓子（岩手県立大学）、

教授・博士（経済学）山本健（総合政策）、講師・博士（情報科学）鈴木伸生（総合政策）

技術キーワード：魚類養殖、食産業クラスター、トラウトサーモン

▼研究の概要（背景・目標）

1.宮古市の水産加工業の基盤となるサケ定置の減少に対応するためにこれまで内水面漁業として養殖されてきた「トラウトサーモン」養殖を海面で実施した。

2.原料供給としてのアキサケを補完する食材として「トラウトサーモン」養殖を定着させる要因を明らかにする必要がある。

▼研究の内容（方法・経過）

1.調査対象：宮古市役所、宮古漁協、宮古市役所、三陸やまだ漁協、岩手県庁他

2.調査内容：養殖に関わる導入の経緯、関連産業、需要条件、要素条件、企業戦略及び競争環境に関わる認識他

3.調査期間：2020年9月～2021年3月

4.分析手法：「ダイヤモンドモデル」(Porter, M.E.)を用いた定性的な分析

▼研究の成果（結論・考察）

1.不漁の続くサケを補完する魚種の導入の必要性が強く認識され、技術の導入条件が整いつつあることが明らかになった。

2.他県で実績のあるギンザケ、トラウトサーモンなどの技術移転を受ける条件が整いつつあることが明らかになった。

3.原材料として新品种が加わることで食産業クラスターの新たな展開が見られた。

表1 岩手県のサーモンブランド

組織名	清水川養鱒場	宮古漁協	久慈漁協	新おおつち漁協
ブランド名	八幡平サーモン	宮古トラウトサーモン	久慈ギンザケ	岩手大槌サーモン
魚種	トラウトサーモン	トラウトサーモン	ギンザケ	ギンザケ
価格(円/kg)	n.a.	800	600	600
会社	清水川養鱒場	ニチモウマリカルチャー	日丸丸紅飼料株式会社	日本水産
本社	八幡平市	福岡市	東京都	東京都

資料：みなと新聞 <https://www.minato-yamaguchi.co.jp/minato/e-minato/articles/102411>

なびたび北東北 <https://www.navitabi.jp/article/4168>

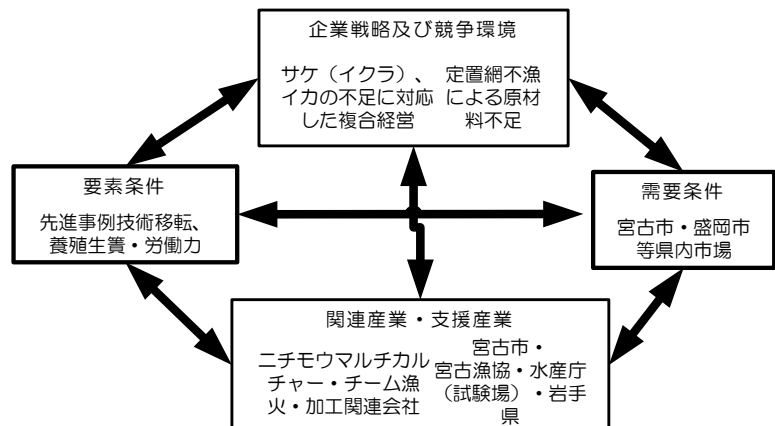


図1 「トラウトサーモン」養殖に関するダイヤモンド・モデル
資料：Potter M.E.(1999)の「ダイヤモンド・モデル」を参考にして
著者作成。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1.本研究で得られた成果をモデルとして、周辺地域への普及可能性を調査する。

2.残された課題として、地域水産業の産業クラスターとしての蓄積について評価手法を再検討する。

3.調査実施にあたり、ご協力いただいた宮古市役所、宮古漁協、宮古市役所、三陸やまだ漁協、岩手県庁の関係者の皆様に記して感謝いたします。